

平成26年度第2回広島市都市デザインアドバイザー会議

日 時 平成26年12月25日（木）15:00～

場 所 大手町平和ビル5階大会議室2・3

○萬ヶ原都市デザイン担当課長

先ほどは寒い中、現地視察お疲れさまでした。定刻より若干一、二分早いですが、進めさせていただきます。

本日進行を務めさせていただきます、都市デザイン担当課長の萬ヶ原です。よろしくお願いたします。

ただいまから、平成26年度第2回広島市都市デザインアドバイザー会議を開会いたします。

それでは、会議に先立ちまして、都市計画担当部長の香川から、一言、皆様に御挨拶いたします。

○香川都市計画担当部長

お疲れさまでございます。都市計画担当部長の香川でございます。

委員の皆様には、お忙しい中、先ほどは、寒い中を歩いていただきまして、アドバイザー会議に御出席いただき、ありがとうございます。

本市では、広島歴史を伝える魅力的な資源、また豊かな水と緑に恵まれた自然を生かした個性的で魅力ある景観の形成を図り、美しく品のある都市景観の創出に取り組んでおります。本日の議題である相生橋や平和大橋歩道橋、バス停上屋等の施設につきましては、国の名勝であり、また、世界遺産である原爆ドームを含む平和記念公園の周辺地区にあります。当該地区につきましては、世界遺産周辺にふさわしい景観を形成するとともに、原爆ドームと慰霊碑を貫く南北地区の眺望景観の確保など、平和都市を象徴する景観づくりを進めていくべき地区であると考えております。

本日のアドバイザー会議におきまして、皆様方から貴重なアドバイスをいただき、平和大橋歩道橋、相生橋、バス停上屋等のデザインがよりよいものとなり、平和都市広島を象徴する平和記念公園の周辺にふさわしい品格のある雰囲気と、都市的なにぎわいとバランスのとれた都市景観を形成する施設になるものであると考えております。

皆様方におかれましては短時間ですが、忌憚のない御意見をいただきまして、議論していただければと考えております。

簡単ではございますが、私の挨拶とさせていただきます。よろしくお願いいたします。

○萬ヶ原都市デザイン担当課長

本日は委員8名のうち7名の委員に御出席をいただいております。出席者についてはお手持ちの配席図と委員名簿をもって紹介に代えさせていただきます。

次に本日の案件を説明する、広島市の関係課職員及び、設計業務受託者の紹介ですが、これにつきましてもお配りしております、出席者名簿に代えさせていただきます。

続きまして、本日の議事について説明をさせていただきます。本日の議事は、先ほど現地を調査いただいた「相生橋ほか1橋塗装補修事業」、「平和記念公園ほか1箇所バス停上屋整備事業」及び「平和大橋歩道橋整備事業」の3件でございます。

案件の検討に入る前に、デザインの検討方法について説明させていただきます。広島市都市デザインアドバイザー会議運営規定では、通常設計の着手後、設計のコンセプト等、基本的な考え方が提示されるころに、現地調査を行った上で、1回目の会議に諮り、道路または橋梁等の外観デザインについて複数の案、または具体的な案が提示されるころに2回目の会議に諮ることとしています。

また、実施設計、または詳細設計完了後、速やかに3回目の会議を開催し、対応状況について報告を行うことにしています。一般的には都合3回で構成されております。しかしながら議事1「相生橋ほか1橋塗装補修事業」については、既存橋梁の橋桁の塗装替えであることから、色彩について基本的な考え方を踏まえた上で検討した複数の案を今回提示したいと考えています。こうしたことから今回は、通常1回目と2回目の会議を統合したものとし、次回、通常であれば3回目に当たる状況報告を行うことにしたいと考えております。

座長、よろしくお願いいたします。

○岡河座長

通常3回ですが、この案件につきましては、設計コンセプト等基本的な考え方を踏まえて検討した後に提示される複数の案が提出されているということで、2回の会議で相生橋の案件を審議するということですが、いかがでしょうか。委員の方は、2回でよろしいかどうかですが。

〈各委員異議なし〉

○岡河座長

よろしいですか。

では、2回の会議でアドバイザー会議をすることにさせていただきます。

特に異議がございませんでしたので、「相生橋ほか1橋塗装補修工事」につきましては、2回で審議を完了することとして扱います。

○萬ヶ原都市デザイン担当課長

続きまして、議事3平和大橋歩道橋、一番最後に、現地を見ていただいたところですね。

これについて経緯等を補足説明させていただきます。

本会議開催要項第3条第2項の規定で、コンペ等の協議設計の対象となるものは審査対象施設から除くこととしており、平和大橋歩道橋は平成20年度に実施した平和大橋歩道橋デザイン提案協議によりデザインを決定していたため、本会議の対象ではありませんでした。しかしながら、平和大橋東詰め交差点、先ほど説明を受けた場所ですが、この交差点の廃止が前提となる当初計画については、地元からこの交差点の存続を求める多くの意見が出されたことから、協議設計で選ばれた案を取りやめ、改めて計画を見直すこととなりました。計画の見直しに当たっては、協議設計の方式を採用しなかったことから、今回、本会議の対象としたものです。

それでは、案件の検討に入っていきたいと思っています。ここからの議事進行については座長、よろしくお願いいたします。

○岡河座長

平和大橋についてはコンペではなくなったということで、このアドバイザー会議でアドバイスをしていくという形ですね。

それでは、まず、議事1「相生橋ほか1橋塗装補修事業」について説明をお願いします。担当をお願いします。

○紙田中区地域整備課課長

工事を担当いたします、中区役所地域整備課長の紙田でございます。どうぞよろしくお願いいたします。

それでは説明に入らせていただきたいと思います。今回の我々の担当いたします、「相生橋ほか1橋塗装補修事業」及び「平和記念公園ほか1箇所バス停上屋整備事業」、この2件とも平成26年7月4日の告示で、1月1日から運用されます、広島市景観計画の対象エリアに入っておりますので、お手元の資料の内、右上に参考資料と書いております広島

市景観計画の概要を、該当部分をピックアップさせていただきまして、説明をさせていただきたいと思います。

参考資料の1ページをお開けください。まず、基本方針としまして、広島市の景観特性を踏まえた形で、「平和」、「歴史・文化」、「水と緑」、「にぎわい・おもてなし」という4つの観点で整理がされています。景観計画では、景観形成の4つの基本方針を踏まえた上で景観計画重点地区を設定しており、今回の案件につきましては、原爆ドーム及び平和記念公園周辺地区のA地区に位置しております。

次のページをお開きください。国指定の名勝であり、また世界遺産である原爆ドームを含む平和記念公園周辺地区については、世界遺産周辺にふさわしい景観を形成するとともに、原爆ドームと慰霊碑を貫く南北軸の眺望景観の確保など、平和都市を象徴する景観づくりを進めることになっております。

議事1、議事2と示しておりますが、議事1が相生通り、T字型の先ほど現地で見ただいた橋でございまして、議事2が原爆ドーム前と平和記念公園のバス停の位置でございます。2件とも、下に赤で囲んでおりますが、A地区というさらに細かいエリアの中に入っております、次のページをめくってください。この地区に関する景観形成の方針が記載されておまして、赤枠で囲んでおりますけれども、「ア」から「オ」ということでありますが、特に「ア」建築物とのデザインは平和記念公園のたたずまいとの調和を図ります。一番下の「オ」ですね。建築物等の色彩については、平和記念公園の落ちついた雰囲気と調和するよう、高明度、低彩度を基調としますというところがかかってくるのではないかと考えております。

次の4ページをお開きください。さらに形態意匠の基準で、これも赤で囲んでおりますが、色彩の基準で、バス停の上屋につきましては日よけ、雨よけ等で、色彩は落ちついた色彩とし、次の範囲から用いるものとするということで、具体的には0 Rから5 Yの色相の場合は彩度8以下、上記以外の色相は彩度6以下と定めてございます。

それと下の橋梁につきましては、橋梁が位置する河川の特長や平和記念公園及び河岸からの見え方に配慮するとともに、周辺環境との調和を図るということになっております。

5ページ以下は参考として、具体的な色の範囲と、AからD地区についての使用可能色の範囲が提示されております。これをもとに検討をしていったということでございます。

続きまして、まず「相生橋ほか1橋塗装補修事業」について説明をさせていただきます。

1ページをお開きください。先ほど現地でも説明をさせていただきましたけれども、

目的でございますが、現在の橋は1983年、昭和58年、相生橋連絡橋が1982年、昭和57年に旧国道54号の相生橋の架け替えが完了しております。橋りょう全体のデザインは、架け替えの際に全国から公募したデザインをもとに景観決定をされております。

その後、30年以上が経過しており、橋梁概要に塗装年月日と書いておりますが、30年以上が経過しており、定期点検でも橋桁の塗装の劣化に伴い、防蝕機能の劣化及び腐食が顕在化していることから、塗装の耐用年数からしても早期に維持補修を行う必要があるものでございます。

橋の色彩検討に当たりましては、先ほど説明しました景観計画を基本といたしまして、平和記念公園の落ちついた雰囲気と調和するよう高明度、低彩度を基調として検討しております。右に比較案ということで、4案ほど提示をさせていただいております。まずは相生橋塗装色彩案の立案で、第1案につきましては青色系統で、もともと現在塗装されている色彩ということで、推定とは書いておりますが、これは当時のパンフレット等からも、ほぼ近いという形の色になると考えております。

第2案につきましては無彩色で、桁、橋脚との一体感が得られる色彩で、多少グレーっぽい感じの色の案でございます。

第3案では、黄色系で、温かく落ちついた印象を持つ暖色系の低彩度の色彩で、少し温かみを感じるような色の案でございます。

4案は緑系で、河川、緑などの周辺景観との調和に配慮した色彩でございます。

下の表にあります色彩番号、マンセル値が表のとおりでございますが、いずれも汚れが目立ちにくく、橋脚等のコンクリート色と明度、彩度とも同程度であり、一体的な印象を持つような案を提示させていただいております。

次のページをお開きください。第1案から第4案について、実際に塗装をした際のイメージを示しておりますが、この資料だと小さくて分かりにくいと思いますので、お手元に拡大したものを用意させていただいておりますのでそちらを見ていただいて、それと色見本を用意させていただいておりますので、それらを見ていただいて検討をお願いしたいと思います。

一番下に、採用案についてということで書いております。各案とも高明度、低彩度でありまして、平和記念公園の落ちついた雰囲気と調和しており、また橋脚、橋台のコンクリート色との明度・彩度とも同等で一体的な印象を受けますけれども、現況の周辺環境との調和、また架橋当時からの風景の一部として、市民に慣れ親しんでいることなどを考慮い

たしまして、第1案を推奨案としております。

以上で事業の説明を終わらせていただきます。御審議のほどをよろしく願いいたします。

○岡河座長

それでは、委員の先生に御審議いただきます。

柏尾先生。

○柏尾委員

該当地区と近隣の橋梁の桁色について、資料を御用意していただいているようですので、それについて説明いただければと思います。

○紙田中区地域整備課課長

近隣の橋梁としましては、北側に空鞆橋、下流側に、西側から来ますと本川橋、西平和大橋、中島神崎橋。それから東側に元安橋、平和大橋、万代橋で、写真を付けた状態で配らせていただいております。

近接する他の橋梁の色彩についてということで、空鞆橋、本川橋、西平和大橋、平和大橋という色調とすれば、ちょっと緑かかったものが多くあるのが周辺の橋梁の状況でございます。各橋梁について写真をつけておりますので御覧いただいて。空鞆橋につきましては、この写真のとおり緑っぽい感じ。現在の本川橋もこういった緑っぽい感じです。元安橋については、石張りということで、白っぽいイメージの橋梁になっております。西平和大橋、平和大橋につきましても、現在はグリーン、緑っぽい状態になっております。万代橋は水色系、青系ですね。中島神崎橋、これは光の加減で、急遽撮らせていただいた写真で見えにくいんですけども。現地は、黄色っぽい感じになります。

周りの橋梁は今、そういう配色の状況でございます。

○柏尾委員

最初に説明いただきましたけれども、採用案についての考え方ですね。こういう考え方で基本的にはいいと思います。周辺の橋りょうとの関係につきまして、この地区の一番南側の2つの橋の色彩、その上の橋りょうと桁の色が違うようですが、それ以上の橋ということで、特に相生橋という橋が広島において特に重要な橋ですので、南側、北側の部分の橋と色彩を異なる、こういうやり方で、ひとつ象徴化させるという考え方ではないかと。

いろんな色についての視点を持っていくときに、例えば景観との調和、今回の色彩選びについては、この1案についても周辺に溶け込むためだと思いますし、相生橋という橋が

原爆投下時、水を求めて多くの方が苦しまれたという歴史的背景もありますので、この青という色相はふさわしいのではないかと思います。

私としましては、1、2、3、4案の1案、基本的にはこの1案で進めていかれるとよいのではないかと考えております。ただ、この橋自体が架け替えから30年たっておりまして、橋脚、欄干の部分、脚の部分がかかなり古くなってきております。今回の第1案の提示色が、当時の塗色を同じ色に推定再現ですが、提示されている色彩が、かなりクリアですので、欄干の石の部分との新しさ感、そこに大きく違和感が出てくるはずなんです。当時ですとこのクリアなブルーが、御影石も新しいものとの関係で、全体が新しくなりましたということですが、今回塗装色部分だけが新しくなりました感が強くなって、欄干は余計古く見えてしまうという関係になりますので、基本的には第1案をベースにワントーン下げる、明度を0.5程度下げられたほうがよろしいかなとは思っています。

以上です。

○岡河座長

鰐澤先生、いかがですか。何か全体で、ちょっと感じをお願いします。

○鰐澤委員

素直に言うとはよく分からないんですが、今、このコピーを見せていただいているんですが、やっぱり橋の下の色が一番強いんですよね。これが一番目立つなと思って。先ほど現地で御説明いただいた、人ですか、欄干が。人のデザインになっていることと、石自体が少しくすんできていますよね。本来であれば欄干が一番目立つようになればいいんだろうなと思います。

そうすると、4つの中でどれを塗っても鉄の部分だけが目立ってしまうような気がしないでもないですが、あえてこの中から選べと言われますと1案で、柏尾先生が言われるように、出来た当時より当然色もくすんでいますので、少し暗い方向でしたほうがいいかなと思います。

○岡河座長

では彩度を落とすということですか。

○鰐澤委員

そうですね。

○柏尾委員

明度ですね、明度を落とす。

○岡河座長

明度を落とす。

これは技術的には可能ですか、同じ色相で明度を落とす。

○紙田中区地域整備課課長

はい。

○岡河座長

ぜひそういうふうに検討していただいたほうが、欄干等のバランスで基本的に同じ色だけれども、明度を落としていく方向で進められるということ。

ほかの委員の先生、いかがですか。今2人、アーティストにお聞きしたんですが。どうですか、先生。

○伏見副座長

よろしいと思います。明度をちょっと下げてくださいというのがよろしいと思います。

○岡河座長

確かに石が古くなった分、ペイントも少し明度を落として、全体でトーンを落とすという。

○西村委員

ということは、今は1案と2案の間ぐらいのイメージなんですかね。

○岡河座長

色そのものは変わらないと思うんですよ。明度が落ちることですから、少しくすんだような。

○柏尾委員

サンプルありますけれども、回しましょうか。

○岡河座長

どれぐらいに落とすと。0.5とさっきおっしゃっていたけれども、どれぐらいになるの。

○柏尾委員

今、2段目ですよ。3段目が明度だけ落としています。

○岡河座長

3段目ね。ちょっと落とすということですね。

○柏尾委員

2段目のブルーだとかなりクリアな感じになりますから、欄干との差が大きくなります。

○岡河座長

大きくなって、塗りがえたよという感じになりますよね。

○藤井委員

それは光沢とは違うんですか。

○柏尾委員

光沢とも違いますね。色そのものにクリア感がありますね。2段目の提示色の場合は、にごりのない色で。

○伏見副座長

面積効果で色が、光が当たったときに鮮やかに見えてしまうので、サンプルで見るよりうんと鮮やかに見えると思います。鮮やかに明るく、鮮やかにというより明るく見えてしまう。

○岡河座長

例えば、今2段目ですよ、提示していただいているのは。4段目まで落とすと、今度は暗くなり過ぎるのでしょうか。

○柏尾委員

色の印象としては、ブルーの持つ色の印象としては、やはりブルーのさわやかさ、すがすがしさという意味合いも必要になってくると思います。広島の明るい未来を感じられるようなというのがありますので、4段目だと、これは大きくなってもし暗いかもしれないですね。バランスを考えていくと、この3段目のじゃないかなと思います。大きくなって、明るく派手になりますが大丈夫だと思います。

○岡河座長

というアドバイスですが、ほかに何か特にございませんでしょうか。

○藤井委員

塗装に当たって、高欄とかそのあたりは掃除されるんですか。それともリニューアルされるんですか。

○紙田中区地域整備課課長

正直、そこまで決断はしておりません。

○藤井委員

ぜひというか、ついでに桁内のほうがあるんですが、外観はそれでいいのかもしれませんが、維持管理というか長寿命化を図るという意味では、杓が結構傷んでいるような気が

しますよね。桁端です。橋台のパラペットのところに、かなり水が出ていますよね。あの辺は根本的に直されるといいんじゃないかと思imasuので。杓は結構と言いながら、30年ほどたちながら、状態はいいと思imasuが、もう少しその辺を点検されて、不具合を直すともた長持ちすると思imasu。

それとTのコーナー、交差部も、今日はちょっと見ていませんが、あの辺も独特な、こちらから来て、この桁の上に乗っかっているようなディテールじゃないかなと思imasuが、違imasuか。

○永井中区地域整備課課長補佐

そうです。

○藤井委員

杓がないですよね。

○永井課長補佐

はい。別に補強の桁をもう一本かけて、桁を置いています。

○藤井委員

分かりました。その辺も何か水回りがありそうな気がするので、ぜひ。

○紙田中区地域整備課課長

もう一度確認してみます。ありがとうございます。

○岡河座長

長寿命化、この際、もし可能なことというふうにできたら、やっぱり長く使う。具体的には、橋脚のところの上を、何とか防水塗装をもう少しするとそういうことですか。

○藤井委員

床板はしないんでしょう。

○紙田中区地域整備課課長

今回は塗装の塗り替えということで考えています。

○藤井委員

この床板も局所的にはかなりクラックが入ったりして、局所的に傷んでいるような感じがしますよね。もう少しよく見ればよかったんですが。

○紙田広島市中区地域整備課課長

長寿命化については、点検も、ここの橋だけでなくてしておりますので。先生に言われたことをもう一度確認して、対応可能かどうか検討していきたいと思imasu。

○岡河座長

よろしいですね。

続きまして、第2番目の議事に入ります。議事の2番目といたしまして、「平和記念公園ほか1箇所バス停上屋整備事業」について説明をお願いします。

○紙田中区地域整備課課長

続きまして、議事資料2に基づきまして説明をさせていただきたいと思います。

1ページをお開きください。まず1の目的でございますが、3の位置図の赤色で示しております、現地を見ていただきましたからお分かりいただけると思いますが、南側、中2区比治山庚午線、平和大通りと言われております。この南北にございます平和記念公園バス停、それと北側の現在国道185号となっておりますが、一部区間、相生通りの南側にある原爆ドーム前バス停は、現在バスシェルター、上屋がなく、雨天時の不便など、待合い環境が整っていない状況でございます。このため、バス利用者の雨天時の快適性確保、利便性向上を目的として、バス停上屋を整備するものでございます。

本場所は、本市の中心市街地であり、本市を代表する施設である平和記念公園や原爆ドームの交通機関の玄関口となる重要な地点でございますので、周辺景観との調和に配慮したバス停上屋となるよう、デザインの検討を行うものでございます。

2の事業概要でございますが、事業期間は平成27年度以降で、供用時期、事業費とも本会議での御意見等踏まえた上で決定したいと考えておりますので、未定とさせていただきます。

4の現状、右側の現状ですが、平和記念公園バス停は表1と表2のとおりでございます。現在広島バスさんと中国JRバスさんの観光バス、広島めいぷる一ふ、赤いバスですが、運行しております。表1の広島バスは、吉島線、草津線が運行しております。1日当たりの平均乗降者人数は上り線下り線とも黄色で網掛けされておりますが、約600人前後と多くて、市街地の主要なバス停の1つとなっております。

表2の広島めいぷる一ふはオレンジルート、グリーンルートの2ルートで、最大利用月日の1日当たりの乗降者数でございますが、約300人程度、平成25年4月の運行当初の18便から利用者の増加に伴い増便したという経緯がございます。右下に南北バス停の現況写真を載せております。

2ページをお開きください。原爆ドーム前のバス停、下り線も南側ですけれども、平和記念公園のバス停と同様に表3、表4のとおり、広島バスと広島めいぷる一ふが運行して

ございます。そのほか、広電バスが平日の早朝2便だけですが、停車するバス停でございます。

表3の広島バスの1日当たりの平均乗降者数は22人程度で、これは非常に少ないんですが、これは主要バス停である隣の紙屋町から徒歩圏内であることと、広島駅から原爆ドーム前の経路は広島電鉄さんと同経路であることから、若干少な目に出ていると思われま

す。表4の広島めいぷる一ぷは、平和記念公園のところとほぼ同程度の約280人程度で利用者数は増加傾向でございます。

現在のバス停の状況は下の写真のとおりでございます。

右側にいきまして、周辺のバス停及びバスシェルターの設置状況でございますが、計画地及び計画地の周辺は本市の中心市街地でありまして、バス停も多く、バスシェルターも比較的整備されている状況でございます。タイプは写真付で入れておりますけれども、①から③のとおりで大きく分けて3タイプでございまして、広告パネル付バスシェルター、フラット屋根バスシェルター、一番下のアール屋根バスシェルターでございます。大半が①の広告パネル付バスシェルターで、新たに整備されているのもこのタイプでございます。

3ページをお開きください。計画地周辺のバス停及びバスシェルターの現況を載せております。左の下に凡例がございますが、赤は今回の検討箇所3カ所でございます。オレンジが、バスシェルターが設置されているバス停、青が、バスシェルターがないバス停でございます。北側の電車通りの相生通りにも南側の平和大通りにも、おおむね半数程度のバス停にシェルターが設置されており、相生通りは上り線、平和大通りは下り線にどっちかというように設置されております。

4ページをお開きください。6番のバスシェルターの整備方針でございますが、計画地の現況及び周辺施設、それから上位計画である広島市景観計画と関係課への意見照会などから整備方針について整理を行いました。広島市景観計画に挙げられている内容を表にしておりますが、キーワード等につきましては、原爆ドームを貫く南北軸線上の象徴的な眺望景観の確保、美しく品のある都市景観、世界遺産の周辺にふさわしく品格のある雰囲気、都市的なにぎわいとバランスがとれている都市空間。それと、平和記念公園のたたずまいとの調和、公園へのアプローチとして、ゲート性などに配慮した空間整備、平和記念公園の落ちついた雰囲気と調和、高明度、低彩度という内容、キーワードがございまして、右側の関係課の意見照会から挙げられる内容、キーワード等につきましては、壁面を透明にする等、景観に配慮したほうがよいといったものです。

平和記念公園の南北軸を阻害しないとなっております、これらを踏まえたバスシェルの整備方針で、真ん中ほどに書いておりますが、まずシンプル、施設として主張しない、周辺施設等を阻害しない落ち着いた雰囲気を持たせる。それからアーバン、都会的な美しく品格のある洗練された雰囲気を持たせること。それからハーモニー、周辺施設計画との調和というこの3点を挙げております。

バスシェルのカラーとしましては、広島市景観計画によるA地区における色彩の基準ということで、0Rから5Yの色相で、彩度が8以下、それ以外の色相で彩度6以下というものがございますので、それを踏まえた上で、平和大通りの路線色であるクスノキブラウンで、統一を図る案としております。

具体的な案としまして、A案、B案の2案を提示させていただいておりますが、A案は周辺バス停と同一製品のバスシェルターで高さが3メートル、長さが4メートル、幅が2メートルのもので、B案はA案よりは少しコンパクトな感じで、多少開放的なタイプを提示させていただいております。

5ページから11ページにこの3カ所につきまして、バス停の現況、それからA案、B案のバスシェルター設置時のイメージを、車道方向側からと歩道方向側の2方向からのものを載せております。ちょっと枚数が多いですが、以上で「平和記念公園ほか1箇所バス停下屋整備事業」の説明を終わらせていただきます。

御審議のほどをよろしくお願いいたします。

○岡河座長

これはA案にするかB案にするかをアドバイスということによろしいですか。

○紙田中区地域整備課課長

別にこの案にこだわらなくても御意見をいただければいいと思います。

○岡河座長

岩重先生、いかがですか。そんなに違いはないんですが。

○岩重委員

A案、B案は、いろんなところに設置されているバス停と同じで、この2つを比べたときには、明るく開放的という、屋根が明るいものもいいのかと思います。夏は暑いかなと思ったりします。

広島市のバス停をこの形で統一していこうという思いがあるならこれでいいし、平和記念公園の前であつたら、何かもっと特徴的なものも、以前、公衆便所のコンペをされたと

きのような形で募集してみられるのも面白いんじゃないかなと思ったんですけども。

○岡河座長

平和記念公園のところだけは特別にバス停も、何かそういう形でもよいかもかもしれませんね。

鰐澤先生どうですか、造形的な。

○鰐澤委員

ミニマルなほうがきれいだなと思います。

○岡河座長

ミニマルというのは、できるだけシンプルで要らないものがない。

○鰐澤委員

シンプルですね。暑いですかね、やっぱり夏。

○紙田中区地域整備課

暑いと思います。

○鰐澤委員

これは暑くならないで透明ってあるんですか。

○紙田中区地域整備課長

このB案につきましては、既製品で調べてみたんですが、すりガラス的なタイプはあるんですが。

○鰐澤委員

そうすると余り暑くないんですか。

○紙田中区地域整備課長

いや、ちょっと暑さまでは。今、現物をこちらで用意させていただいていますが。日よけという意味で、色がB案はあまり。このような感じです。

○鰐澤委員

透けないということですね。

○紙田中区地域整備課長

これが透明な。

○鰐澤委員

こういうことですね。接着してあるんですね。

クリアでいいと思うんだけど。軽さから言えば、B案がいいかなと思いますけれど。広

島の夏は暑いですね。

○岡河座長

ちょっと私が思ったのは、葉っぱが落ちたときにメンテが、特に原爆ドームのところは上に大きな木がありますよね。ガラスの屋根があって、葉っぱが結構大変なんです。だから、意外に透明をずっと維持するにはすごいメンテかかってというところがありますから、私はどちらかと言うと、ミニマルにならなくなるということになって、透明でなくなって、汚れを下から見上げるようなことが少し気になります。

実は縦の柱の数が、A案のほうが少ないんですね。両端だけなんです。B案は3本ですね、縦の線が。その線が少ないのが、要するに平和記念公園のところ、ずっと水平な線も含めて、できるだけ線が少ないほうが、オーソドックスになりますが、A案とB案という、A案の方向の方が、ちょっといいような気がします。

○鰐澤委員

要するに真ん中の柱は、これは別に構造的には機能してないですか。これは、ただガラスをとめておくだけのものなんですか。

○岡河座長

これ何なんでしょうね。左側はガラスを上下でとめているんですよね、A案は。B案は柱でとめているんです、横からとめているんです。だから、多分ディテールの違いだけです。力学的にはこれも両端で多分すみすみますよね。要らないです。

○紙田中区地域整備課長

これは既製品のタイプで、そういう細かいところについては、まだ対応が可能であると思います。ガラスの色も、専門ではありませんが、多少色を濃くするとか、技術的にはできるんじゃないかと思います。

○岡河座長

濃くして、葉っぱが見えないように。

○紙田中区地域整備課長

日よけということに注目すれば。

○岡河座長

もしくはB案でいくのであれば、柱は両端だけで、よりミニマルに何とかしていただくということで。

○鰐澤委員

A案と同じですね。

○岡河委員

A案と同じで、縦のプレートのところですよ。

○紙田中区地域整備課長

もう両側だけ。

○岡河座長

そうですね。

○紙田中区地域整備課長

このA案のようなイメージですね。

○岡河委員

A案のような取り付け方をさせていただくと。上はガラスはガラスで、少し明るくというか、それでもいいかもしれません。

○西村委員

私も折衷的なものを考えてみたんですが、というのはA案は柱が少ない。構造的にも横幅が広く感じるな。ただし、多少大きいかかと、バス停としたら、大きさが。

○岡河座長

大きさがね、長さが4メートルありますからね。70センチぐらいB案が小さいですね。

○鰐澤委員

コンパクトな分だけ、またコストも安くなると思います。ただ、私、このB案は、一番の欠点は夏の暑さだと思います。広島夏の暑さはちょっと尋常じゃない。ということで、雰囲気からすればA案とB案のちょうど真ん中というか、改めてC案もあってもいいかなと今考えております。

○伏見副座長

ガラスなんですけど、今クリア系のガラス、サンプルでいただいたんですが、これをアンバーのガラスにさせていただいて、柱と調和する色合いにされたらどうかと思うんですけども。アンバー系のガラスにさせていただいて。

○紙田中区地域整備課

アンバーという。

○伏見副座長

茶系というか、柱に合った茶系のガラスにさせていただいて、紫外線よけを付けていただけると、高くはなるかもしれないですが、2カ所ですのでいいと思います。

○岡河座長

大きさは多少小さくてもいいんですか、余り人がたくさん乗り降りしないんですよね、ここは。

○紙田中区地域整備課課長

イベントとかあれば別なんですけれども、普段はそんなに。

○岡河座長

10センチ違うだけですが、小さいもののほうが目立たない気はするんですよ、こういうものは。1人2人でしょう、雨のとき待っておられるのも。2つを一緒にしながら、少し小さ目、両端だけの柱で、ガラスにするなら少しその辺の色か、あと最近フィルムの間で印刷したり色々できますよね。機能性ガラス、機能性のプリント、その辺を少し考えていただいて、次回にそれで検討していくという方向でいかがですか、委員の先生方。2つのいいところを混ぜながら進めていってくださいということです。

○藤井委員

臨時委員で申しわけないですけれども、発言してよろしいですか。

これは幅3.3メートル、Hが2.5で、奥行きが2.1メートルなんです。例えばA案、B案を比べたときに、B案は本当に開放感があるんですか。

○岡河座長

開放感といいますと。

○藤井委員

開放的なシェルターといううたい文句ですが、本当に開放感あるんでしょうか。こういうところでやると、確かに上が見えるとかそういうのは大きいですが、あそこにいったときの大きさの中で開放感が出てくるんでしょうかね。

○岡河座長

上がガラスになることでということですか。

○藤井委員

皆さん、先ほどから夏が暑いとか、そういう話は確かにあるんですが。余り開放的でもないような気がしますし、A案が開放的でないかというところもなくて。高さが3メー

トルと高さが2.5メートルのこの差は、恐らくA案でも2.5メートルでいいというなら、これはどの辺の制限があるのかはよくわかりませんが、2.5メートルにすれば、雨の当たり方も少し違うでしょうし。

端は座長、さっき2本とおっしゃいましたけれども、もちろんこれを4本にすれば細くできます。ですから、1つの面にいっぱい出てきたのが、気になるか気にならないかちょっと分かりにくいんですが。2本は確かにきれいなんですけれども、その後ろというか、柱はバスの後ろ側に来ますよね、柱が。じゃないでしょうかね。どちらを。バスの側からこうなんですかね。

○岡河座長

後ろ側に柱だと思います。バスのほうに向かって。

○西村委員

歩道に向かって柱です。

○藤井委員

後ろが柱ですよ。何とも言えないですが、酔っぱらいとかがぶつかることもあるので。前だと。

○西村委員

いや、前です。

○藤井委員

前ってごめんなさい、バス側に柱があるというので。

○鰐澤委員

これ、歩道側に柱なんですか。

○藤井委員

バス側のほうに柱です。

○鰐澤委員

車道側ですね。

○藤井委員

そうすると余り、柱の本数が多くないほうがいいですよ。

○岡河座長

そうですね。恐らくこれは、どちらもL字型で多分柱の径とキャンティレバーを同じというのがコンセプトだと思うんですよ。デザインとして。今の銀座の歩道、実は照明灯が

そうなんです。柱とキャンティレバーが一緒の大きさなんです。そういう意味では、割と最近の町の中のストリートファニチャーのデザインだと思うんです。

○藤井委員

ただこれ、確実に屋根部と柱って分けていますよね。一本物で出してきた、屋根を付けるというのもありではないかなという気が、私はちょっとしたんですけれども。

○鰐澤委員

これ既製品だから、両方サイズ同じじゃないんですよね。それだけの理由でしょう。既製品だから。調べにくいですよ。

○紙田中区地域整備課課長

既製品から変えたりはしていません。

○岡河座長

これは、部材は同じで、大きさのアレンジはできるということなんです。製品だったら。部材、大きさは多少のアレンジできるんじゃないかな。部材は同じものを使うわけだけですよ。

○紙田中区地域整備課課長

それは可能だと思います。

○岡河座長

問題は屋根のところか。

○伏見副座長

柏尾委員の御専門だと思いますが、見た時、物理的な重さではなくて、見た目の明度の重さがやっぱりあると思うんです。ですから、このバス停に近づいたときに、上が彩度、明度、トーンが低いものが上にあるという圧迫感、重さの印象がやっぱり出てくると思うんです。透明、あるいはアンバー系の半透明による物理的な重さではなくて、見た目の軽さ、それによる圧迫感というのが高さとかではなくて出てくるのではないかと思います。柏尾先生いかがですかね。

○柏尾委員

私はこれ、どちらかということだと、A案なんです。それも色彩的なことという、このバス停をどこから見るかですが、利用者以外は視線が水平基調で見るので、なかなかこっちの面は、板の面は見ることはないかなと思います。どうしてもガラスの屋根は、できた当時はきれいなんですけれども、メンテナンスですよ。やっぱりそこをきちんとして

いかないといけないというのがありますから、そこの実際には無理なことです。そこに気をかけたりすることができないわけですからね。機能的、それから機能的なことというメンテ、それから日光を遮ることからすると、素材的にはA案だと私は思います。

○岡河座長

長持ちからいうとA案のほうが長持ち。つまり異素材を、ガラスと金属を組み合わせ、その間を、いずれにしても何らかのシールなり、何か止水の。いずれ紫外線が当たると劣化しちゃうんですよ。それに比べたらA案はシンプル、全部がマテリアル1つだから。そういう意味では、長寿命からいうと恐らくA案の方が長持ちはするのではないかという気はしますね。

○西村委員

A案の、いわゆるガラス部分は、強度はこれで十分なんじゃないかな。

○岡河座長

これは今まで例があるんでしょう。

○紙田中区地域整備課課長

はい。あちこち例があります。

○岡河座長

それで事故は起きてないんでしょう。それは今までの例で判断すればいいと思います。

○藤井委員

高さはいいんですか。

○岡河座長

高さは3メートルでしょう。3メートルということは、普通の室内の天高よりは高いですよ。

○西村委員

高くすればするほど、横からの雨とかが余計入ってきますので、そういう面で私は、まだ高さは2.5メートルあれば十分じゃないかな。恐らく低いほうが、2.5メートルちょい上がって、260ぐらいあると思うんですね。

○岡河座長

傘をさしたときどうなんですか、2.5メートルの高さ。十分入る、大丈夫ですか。

○紙田中区地域整備課課長

通常2.5メートルあれば大丈夫です。

○永井中区地域整備課課長補佐

歩道の建築限界の基準が2.5メートル以上となっています。

○岡河座長

基準からいうと2.5メートルあればいいと。2.5メートルで上が例えば閉じているとうっとおしくないですか。まあ周囲が開いているからそうでもないか。

○藤井委員

開放感ありますね。横から。

○岡河座長

バス停って、ずっと待っているときだけですよね。待っているときに何とか快適なほうがいいよね、少しでも。どうしましょう、次回までにそれを、今のところの方向は、一応A案とB案を上手に組み合わせてというお話ですが、岩重委員から特別な場所であるので、そういうデザインのコンペティションなりプロポーザルという方法につきましては、可能性はあるんですか。どうなんでしょう。

○紙田中区地域整備課課長

今のところは考えてはいません。

○岡河座長

考えてはないということですか。分かりました。こういうストリートファニチャーって、街全体である程度同じほうが、何となく街としては落ちついた感じの街にはなるんですね。あれやこれやというよりは。

次回、今日の意見、幾つかをまとめていただいて、A案とB案、上手にいいところを組み合わせて整理していただければと思います。

○紙田中区地域整備課課長

先生方の御意見はコンパクトが1つと、前面の透明度と柱。

○岡河座長

そうです、柱をできるだけシンプルに。

○紙田広島市中区地域整備課課長

屋根をガラスにするのであれば着色すると。

○伏見副座長

アンバー系のガラスがありますので。

○岡河座長

ただメンテナンスのことがあるので、その辺のことや、耐久力についても、その辺は説明をきちっとしていただいて、最終的な。

○藤井委員

イニシャルコストはどうなんですか。コストはどうなんですか。やっぱりガラスになると高いんですか。

○紙田中区地域整備課課長

A案、B案は、大分タイプが違いますので、B案のガラスでないタイプがどれぐらいのお金になるのかというのは現時点で整理できていません。

○藤井委員

A案、B案は同じぐらいですか。

B案のほうが高そうな気がして。

○紙田中区地域整備課課長

多分A案のほうがちょっと高いと思います。

○藤井委員

A案のほうが高いんですか。

○紙田中区地域課整備課長

そうだと思います。大きさが、A案のほうが大きいからです。

○藤井委員

大きさが違いますもんね。

○西村委員

既製品だということですので、恐らく大量生産のものだろうと思います。そういうところ辺で、多少コストが安くなっているんじゃないかなと思います。

○岡河座長

鰐澤先生のようにミニマルというのが、やはり、1つは一番大事。できるだけシンプルで、最小限のデザインとしてというのが、こういうものにはいいです。

○紙田中区地域整備課課長

その辺はまたちょっと検討させていただきます。ありがとうございました。

○西村委員

もう一ついいですか。このパネルのところに、将来バスロケーションシステムとかがで

きたような場合、入れるような状況にあるんですかね。あと何分でバスが来ますよとか何とかというのが、バスロケーションシステムができ上がっている街にはよくあるんですよ。その辺が入れるように配慮したほうがいいんじゃないかなと思います。

○紙田中区地域整備課課長

その辺は、前面をとにかく透明性を持たせるということで、どれぐらいのものが来るのかというのがあろうかと思しますので、その辺も関係課に聞いてみながら検討してみます。

○岡河座長

よろしいでしょうか。

続きまして、議事の3番目にいきます。議事の3番目といたしましては「平和大橋歩道橋整備事業」について説明をお願いします。

○加藤道路計画課長

3番目の議事「平和大橋歩道橋整備事業」について説明させていただきます。道路計画課の加藤と申します。よろしくをお願いします。

表紙に平和大橋が完成したときの写真を掲載しております。このようにコンクリートの打ちっぱなしの非常にきれいな高欄をしておりました。現在は吹きつけ塗装をした後に、塗装自体が劣化してきておりますので、少しオリジナルとは違うような形になっているところを御理解いただきたいと思ひまして、このように付けさせていただきました。

資料1ページをお願いいたします。まず、目的ですが、平和大橋は平和記念公園を訪れる多くの方が利用される橋です。そこには歩行者自転車がたくさん通りますけれども、安全な空間になっていない状況でございます。自動車の走行空間も狭いということでございます。そういったものを一度に解決したいということが目的でございます。

2番目が事業の概要です。橋の幅員は5.7メートル、橋長が86メートルでございます。事業期間は今年度から着手しておりますが、平成30年度までかかる予定でございます。その下に、平和大橋の歩道橋の位置を記入した地図がございますが、1つは太い実線で囲まれている範囲が、平和記念公園の国の名勝としてのエリアです。これに近接した場所にあります。破線で囲われているところが、世界遺産原爆ドームのバッファゾーンのエリアであります。このエリアの中に入っているということになりますので、景観、色彩等にも配慮する必要があるということでございます。右下の絵のような形で、現在の平和大橋のすぐ北側に平和大橋に沿う形で歩道橋を整備する予定にしております。

少し戻りますが、右の上、4の経緯です。この橋りょうは、以前デザインコンペをやっ

ておりまして、一度当選案が決定して、事業化の前までいったんですが、道路の閉鎖等のことで地元の反対もありまして、整備計画の見直しをしております。昨年度から今年度にかけて実施設計を進めているところでございます。今年度を実施設計を完了させる予定です。

5番目の計画の制約条件です。新しい歩道橋につきましては、橋脚は今の現存する平和大橋の橋脚にそろえた位置とし、同程度の幅とする。それから桁下高は、現在の平和大橋の桁下、下面にそろえるというような条件が、河川管理者からそういった条件が付いてございます。

2ページをお願いします。少し補足的な整理になりますけれども、橋梁の形式について、図面等で御説明をさせていただきます。まず左下の断面図をごらんください。赤で書いているのが、新しく架ける平和大橋歩道橋ですが、現在の平和大橋の高欄の下に歩道橋の床板をもぐり込ませるような形にしております。幅員のうち2メートルを自転車道、歩道を3.5メートルとっています。その上にちょっと拡大図がありますが、イサム・ノグチ氏のデザインされた高欄が隠れないよう、これが見えるような形で新しい歩道橋の床板を下にもぐり込ませるようにしていますが、その離隔を100ミリから150ミリとっております。

これは、今の平和大橋のたわみと新しい歩道橋のたわみの設計値も足しますと、90ミリになります。それ以上の離隔をとって、橋同士がぶつかることがないように考えております。その隙間については、物が落ちたりすることもありますので、緩衝ゴムなどを設置するような検討を今進めております。

右の側面図ですが、2スパンで43メートルずつ、計86メートルの橋長になります。真ん中にケイソン基礎の橋脚を設置するように考えておりまして、今年、左側のNHK放送局前の橋台をつくりまして、来年度の秋から平和記念公園側をつくるという形にしております。その下に平面図がございまして、上から眺めると、少し長方形というか、台形ではなくて、少し護岸のあたりで膨らんだような、幅が広がったような形になっております。これは後ほど絵を見ていただいたら分かりますが、高欄のちょうど丸い部分に人や自転車がぶつからないようにということで拡げています。

次の3ページをお願いいたします。デザイン検討に当たって配慮すべきものについて整理をしております。1番、平和大橋高欄の意義について。これはアメリカの著名な彫刻家イサム・ノグチ氏がデザインした現存する唯一の土木構造物とされています。昭和27年に完成して62年が経過しております。丹下健三氏の推薦によって、当時の浜井広島市長

がイサム・ノグチ氏にデザインを依頼したということが残っております。

デザインの由来は下に書いてあるとおりですが、その思いをつくるという名前で命名をされています。2番目、デザイン検討に当たり配慮すべき事項です。まず1つ目ですが、イサム・ノグチ氏がデザインした高欄を尊重するとともに、観光資源としても活用できるよう、歩道橋から見せるような仕掛けを行う。次に歩道橋が目立ち過ぎないように、できるだけシンプルなデザインとする。平和大橋の高欄を貴重な土木遺産としてよみがえらせるため、平和大橋歩道橋の工事に合わせて当時の姿に復元するという配慮事項を掲げております。

その下に、平和大橋の歩道橋のデザインコンセプトも整理をしております、1番から6番まで列挙してありますけれども、例えば1番でありますと、平和記念都市建設法の理念、理想の象徴としての平和記念都市にふさわしい歩道橋とする。2番、イサム・ノグチ氏がデザインした平和大橋の高欄と調和した歩道橋とする。3番、川面や河岸緑地から見える全体の姿が美しい歩道橋とする。4番、原爆ドーム及び平和大橋の高欄の眺望をできるだけ妨げない歩道橋とする。5番、平和記念公園や周辺の河岸緑地、元安川との調和に配慮した歩道橋とする。6番、歩行者と自転車利用者が安心して快適に通行できるように、平和大通りの連続性に配慮した歩道橋とする。6つのデザインコンセプトを掲げて、現在検討を進めているところでございます。

右にございますけれども、このアドバイザー会議において御意見をいただきたい項目は以下のとおりでございまして、まず橋脚、橋台、橋りょうなどの構造物については、河川管理者との協議によって、いろいろな制約を既に与えられておりまして、下部工については構造を決定しています。従いまして、下部構造以外の部分、特に歩道橋の高欄、橋面の舗装、照明、周囲のデザイン等について意見をいただけたらと考えています。

4ページ、こちらは現況写真でございます。先ほどの現地視察で見ていただいたかと思いますが、①は、今日立って、見ていただいたところの場所ですね。②は、高欄と桁を外側から見たところですね。③が、平和公園側から見たものです。現在は歩道を歩きながら高欄に触れることはできますけれども、高欄を外側から見ることは、今はできない状態です。

5ページをお願いいたします。これは鳥瞰図でございまして、少し上から眺めたイメージでございます。高欄の色に配慮して、新しい歩道橋の舗装面などもトーンを落としたものにしていきます。

6 ページをお願いいたします。まず左上の高欄イメージですが、分かりにくいんですが、新しい歩道橋の高欄は透化性のパネルを使って、できるだけイサム・ノグチ氏の高欄が見える、高欄を隠さないようにという配慮から透明なものを使うように考えています。下にいきまして、これは親柱のイメージですが、このデザインを尊重するという意味を込めて、この親柱の下の所はブロックで囲って、芝生を植えるような形にしています。

もう一つの効果は自転車とか歩行者が、親柱がちょうど顔の位置にあったりしますので、普通に歩いているとぶつかったり、自転車の方がぶつかったりするのを避けるためにも、この芝生を設置するような形にしております。芝生の中には照明灯を埋め込みまして、夜間は下から浮き上がらせるような演出を考えたいと思っております。

右上です。舗装のイメージですが、まずイサム・ノグチ氏の高欄に一番近いほうを、ダークグレーの平板ブロックを使っていますけれども、少し凹凸があつてがたがたするようなものを考えていまして、そのところは自転車が近寄って行って、イサム・ノグチ氏の高欄に当たる、接触を少しでも防ぎたいという意味で。自転車で走ると、がたがたと少し違和感を感じるようなものを考えております。その隣が通常の自転車が走る場所ですが、脱色系のアスファルト舗装、グレー系を使っています。帯を挟んで、ちょっとモスグリーンの色になっているところがインターロッキングブロックで、ここが歩道の部分と考えています。そして高欄は透化性のものを使っています。

右下の照明イメージですが、イサム・ノグチ氏の高欄を照らすほうは、ラインの埋め込み式照明を入れていまして、それによって高欄がより浮かび上がるような、あまり明かる過ぎない照度を考えています。一方で左側は、高欄の支柱、縦に灯具を埋め込みまして、こちらのほうで明るさを確保するような形にしています。

あと、歩道と自転車の境目にも埋め込みの照明を入れていきます。

説明は以上でございます。よろしく申し上げます。

○岡河座長

ただいまの説明につきまして、各委員の先生方から御質問、御意見ををお願いいたします。

まずはノグチ先生の高欄、オブジェのような芸術的なフォルムとの関係を、どういうふうに配慮したらいいかですよね。

○鰐澤委員

私は今年度から、これはずっと前から進んでいた話ですよね。決して話をぶち壊すつもりはないんですが、できれば同じ高さで、イサム・ノグチ氏の高欄、これが両サイドにあ

るのが理想だなと思って。

○岡河座長

両サイド。

○鰐澤委員

ええ。

○岡河座長

同じものをもう一個造って、向かって右側に。

○鰐澤委員

これをそのまま移動させる、こっちに。

○岡河委員

これをそのまま移動させる。

○鰐澤委員

これをそのまま。言葉を選ばないで言うと、やっぱり非常に安っぽいというか、そういう感じで1つ下がっていますし。そして、イサム・ノグチ氏の柱がなるべく見えるようにという痛ましい努力をやっぱりするわけですよ。だったら外して、新しいものにぴたっと載せたほうがきれいかなと思って、ずっと聞いていました。

ただ、ずっと今まで話し合ってきたわけですから、私が言うのは感想ぐらいで、これでやるのであれば、残念だなぐらいしか言えないですね。やっぱり橋なんでね、両サイドにあって、美しいですよ。そんなところです。本当にちやちなものを付けるんだったら、頑張って抜いて落とす。

○岡河座長

抜いて落とすか、全く同じものをつくるかですね。全く同じデザインで、物理的にはコンクリートですから、それが大事なことも何でもない。大事なのは形が大事なわけだから、それはもう一度再生するというのもなくはないと思うんですが、一応それはなしなんです。

○鰐澤委員

なしなんです。

○岡河座長

いや、よく分からないんですが、コンペティションがあったらしいですよ。私もそのときは知らないんですね。アドバイザー会議とは関係なく。住民の方が、やっぱりコンペ

ティション案だと車道が一部なくなってしまうので大分不便だということで、もう一度市で考えられたようです。住民の生活のいろんなことを。ダメージを与えたらいけないので。それでもう一度考えられて、一応今、横に歩道橋だけつくろうということになったんですね。経緯はそういうことです。

○鰐澤委員

この当時の、非常にコンテンポラリーでモダンだったイサム・ノグチ氏のものなので、それとこういったガラスですよね。

○岡河座長

今はガラスの高欄を付ける予定ですよね、基本的には。

○鰐澤委員

あまり合わないかなとは思いますが、小さい声で言いますが。それぐらいしか言えないですね。

○岡河座長

もう一つ、私はこの案に、ノグチ先生の手すりを、横から見るという新しい視点は獲得しているんですよ。

○鰐澤委員

なるほど、下がっているから。

○岡河座長

そうそう。要するにオブジェとして見るということは、やっぱりこの案だと可能にしているんで、逆にそのことを少しきちっとできるように考えるのも。要するに、これを美術品だと考える。彫刻作品で横から、今までは機能的なあれで見えなかったわけですね。遠くから。すぐ近くでこれだけの造形を、結構近い距離でも見られる場所だということで考えたときに、少し進展する部分があるのではないかというのがあるんです。

○岩重委員

そう考えたときに、そっち側が自転車側なんですよ。

○岡河座長

自転車側でしょう。

○岩重委員

だから見たいなと思って寄ると、私も寄れていいなと思うと、自転車とぶつかるかなと思ったんですけども。

○岡河座長

これ、自転車と反対にしたらだめなんですか。

○加藤道路計画課長

法律上自転車は車道を走ることになっていて、自転車通行可の歩道を走るときには、歩道の車道側を走ることになっています。この部分だけ入れかえるのは不可能ではないですが、またどこかでクロスしてしまうという問題は出てきます。

座長がおっしゃいましたように、高欄に触れるということが、また視点が変わって違うほうから見られるというメリットがありまして、ぜひ皆さんに近くに立って、触ってもらいたいなという思いはあります。そこに自転車が走ってくるというのは少し問題ではありまして、先ほどの、自転車が近づかないようにという配慮をした平板ブロックをやっているところがあるんですけども、下がちょっとがたがたになっている。そういったところをもう少し拵げられないかとか、そういった検討をして、安全に見てもらえるようにしたいとは思っています。

○鯉澤委員

そこを人が歩いていいんですか。

○加藤道路計画課長

はい。基本的に緩やかな制限を今かけていますが、ここを自転車が走らなければいけないということは、法律等ではなくて。現実にかうやると、やっぱり入り乱れてしまうのは避けられないかなと思います。

○岡河座長

1つの方法としては、先ほど一番高欄に近いところの床をどうするかが結構大きい問題じゃないかと思うんです。要するに床が、一種のある意味では高欄自身を置く台みたいな。なおかつ自転車ができるだけ行かないように。そういう使い方、舗装のやり方がないかなと思うんですけれどもね。

昔、丹下先生、ノグチさんもそうなんだけど、コンクリート打ちっぱなしの下の床、割とびんころ石にしていたんですよ。びんころ石にして、割といいですよ、コンクリート打ちっぱなしと、花崗岩の割った肌。割ったやつを、多少でこぼこを少し自転車が行きにくいような、歩くのにはものすごく不自由じゃないんだけど、自転車としてはみたいな。そのようなことをおやりになると、ひょっとして今度また、色も元のオリジナルに近いような形になったときに、少し特別な帯として機能させることができたかなと。

あと、鰐澤先生、もしそのときに、ガラスの手すり、歩道の。それについて何か御意見あります。造形家として。

○鰐澤委員

これは構造的に、やっぱり3分の2ぐらいの高さで、柱みたいなのが立っているじゃないですか、金属の。要するにこれで支えるんですかね。

○岡河座長

そうですね。今、金属の柱の間に強化ガラスか何かを挟むわけです。金属の柱の中に照明を仕込むと。金属の柱はステンレスですかね。アルミかステンレス。

○株式会社ヒロコン原本課長

アルミです。

○岡河座長

アルミ。

○藤井委員

コンクリート系ではできないですか。恐らくイサム・ノグチ氏の高欄はコンクリートが出てきますよね。それにアルミとかサスを持ってくると大抵合わないんじゃないかなと。ここで金属は、歩道橋の高欄の柱しかないじゃないですか。あとガラスは見えるとして、そうすると割と目立つんじゃないでしょうか、どうでしょう。

○鰐澤委員

僕がイメージしているのは、そういうことができるかどうか分からないんですが、豊田市美術館の谷口さんの階段のようなガラスのフラットなものや猪熊弦一郎美術館の中にあるような、構造的にできるかどうか分かりませんが、そういうものだったら非常に境目がなくてね。

○岡河座長

縦棧がずっとなったやつ、細い。要するに格子戸の縦棧だけがずっと並んでいくような感じですね。

○鰐澤委員

これは出っ張っていますもんね、サイドが。せめて横から見て、フラットに近い状態だといいかもしれないです。

○岡河座長

ステンレスのフラットバーみたいなのを橋面に上げて、縦のすだれみたいな。縦の格子

ですよ。要するに昔の古い日本の家屋の格子戸、縦だけの。そういう状態の手すりはずっといけば、目立たなくなると思いますね。

○鰐澤委員

先ほど座長が美術館に彫刻が置いてあると言われたので、谷口さんの美術館を思い出したんです。そんなものだったら。やっぱりぼこぼこ断面図で見ると出ていますよね、こういうふうに。

○岡河座長

そうですね。柱としてぼこっぼこっと出るよりは、ずっとフラットにいけないかですよね。

○鰐澤委員

せめてどうでしょうかね。それが難しいとしても、やっぱり歩道側は出っ張ってないほうがきれいかもしれないです。どうせ出っ張るんだったら外のほうが。フラットのほうがいいと思いますけれどもね。

○岡河座長

それは縦だけのフラットバーが密にずっとあるような手すりだと、物すごくきれいになると思いますね。金属でもきれいになると思います。

○鰐澤委員

そうですね。

○藤井委員

高欄推力がもたないんじゃないですか。もちろん歩道だから、車ほどは要らないですけども。

○加藤道路計画課長

そうですね。

○岡河座長

強度の問題。

○鰐澤委員

上の木口にもステンレスが来るんですか。上のガラスの厚みの一番上の木口にも、木口はガラスだけで。

○加藤道路計画課長

一番上のところですか。

○鰐澤委員

一番上というのは、この一番上のところにも金属がずっといくんですね。それはガラスじゃないんですか。

○加藤道路計画課長

中段は手すりですが、一番上はガラスではなく、笠木というか。

○岡河座長

逆にガラスにするから、要するに支柱が目立つんですよ。支柱の内側で縦棧をずっとやれば、こっち側がメインになる。強度は支柱に持たせることができれば、かえってガラスで透明にするから、柱がものすごく目立ってどうしようかという話になるんじゃないかなという気もしないではないですね。

強度面とデザインで、要するにできるだけミニマルにしたいわけですよ。都市の中の、無いように見せたい。そうしたら、日本的な一番見えないのが縦格子ですから。もともとノグチ先生のデザインは、これは日本の伝統的な弥生式のというようなことを言われて、当時デザインされているんです。どこか日本の伝統というものを重ねるといっては決して悪いことではない。技術的にできるのであれば。

ヘアラインでずっと縦というのは、きれいはきれいだと思いますよ。

○加藤道路計画課長

縦棧の美しさもあるんですけども、一番嫌った理由は、護岸から見通したときに、護岸に近い部分は縦棧のスリットを通して、向こう側のイサム・ノグチ氏の高欄が見えるんですけども、中央ぐらいになると全然見えない、隠してしまう。できるだけイサム・ノグチ氏の高欄を隠さないというような考えもデザインコンセプトの中にあリまして、そういった面からの選択で透明というのが出てきておりました。

○岡河座長

いや、それは逆ですよ。下手にそんな格子の縦の柱の間からノグチ先生のが見えても、きれいじゃないですよ。護岸から歩いてきて、ここで初めて見るというぐらいの美術品として扱ったほうがいいかもしれないと。私の意見です。

○鰐澤委員

これも既製品なんですか。

○加藤道路計画課長

パネルについてはたくさん既製品があります。支柱は照明を埋め込んだり、そういう工

夫をしようとしているので。

○鰻澤委員

照明はどうやってでもできると思うんですけども。

○加藤道路計画課長

それで太くなってしまおうというのが悩みの種です。

○鰻澤委員

その当時、画期的なデザインの橋ですよ。彫刻家としても世界的な彫刻家ですから。そういうものの近くに、やっぱり大量生産でできたような既製品のもの、さっきのバスストップみたいなものは、やっぱり相乗効果で下げますよね。物の質をね。

○岡河座長

もったいないですね。せっかくこれだけきれいな形があるのにという気はしますね。もうひと頑張りできればしてみたいというか。

○鰻澤委員

さっきのバスストップも、屋根の部分がすごく厚いじゃないですか。あれがやっぱり重たく見えると思うんですよ。木口を薄くすればすごく軽く見えると思うんです。でも、既製品を使われるんだとおっしゃられるんだったら、諦めるしかないと思うんですよ。やってくださいと言うしかないけど、我々専門家が見ると、もったいないなど。台無しにしちゃうなと思いますよ。やっぱり既製品は既製品ですから、建売住宅がそばにきているようなもんですからね。

○岡河座長

それもあるし、やっぱり平和記念公園とノグチさんの橋は、日本のデザインを世界へ問うというレベルの当時の意気込みをされて、そのとおりになったわけですよ。やっぱり平和記念公園も世界中から人が来られるわけだし、オリンピック目指して、オリンピックがなくても世界中から来られるときに、そこで確かに鰻澤先生が言われるように、この手すりについては、少し今のままだともったいないかもしれないという気がしますね。

○加藤道路計画課長

平成30年度の施工に向けて、まだ時間が十分にございますので、いろいろと検討していただきたいと思います。

○岡河座長

そうですね。世界の広島という所の代表的な恐らくこれ、場所の1つになります。いず

れにしても。それを踏まえて、もう少し可能な限り、やっぱり努力するというところでどうでしょうか。

○加藤道路計画課長

ありがとうございます。

○藤井委員

材料的にはステンレスですか、アルミですか。それともさっきの既製品のアルミだったらあまり。

○岡河座長

技術的にはどうなりますか。もし、金属でやるとしたら。

○株式会社ヒロコン原本課長

今はアルミを考えています。

○岡河座長

今はアルミをお考えになっている。それは分かりますけれども、もしも例えば、全部ガラスじゃなくて金属でやろうということになると、何になりますか。値段のこともあるかと思いますが。

○株式会社ヒロコン原本課長

それですと、通常のフラットバーでいくのがオードソックスではありますけれども。

○岡河座長

フラットバー、ステンレスのフラットバーですか。

○藤井委員

軟鋼ですか。

○株式会社ヒロコン原本課長

はい。

○岡河座長

フラットバーって、スチールですか。

○株式会社ヒロコン原本課長

普通の鋼部材です。

○岡河座長

スチールだとメンテナンスなども出てきますよね。

○藤井委員

スチールはどういう色にも塗れますけれども、やっぱり置いておくともうどうしてもね。

○岡河座長

スチールでやるんだったら、亜鉛のどぶづけ処理とかするんですよ。

○藤井委員

それは合わないと思うんですけどもね、亜鉛のどぶづけでいくと。

○鰐澤委員

デザイン次第だとは思いますがね。でも、やっぱり軽い感じでいいかなと思っていませんけれど。

○伏見副座長

鰐澤先生がおっしゃるように、猪熊弦一郎美術館の階段とか、豊田市美術館の階段、あれが本当に一番イメージが近いので、本当にあるんだけどないような、澄み切った透明感のあるイメージなんです。あれが本当に実現できればいいなと思います。

○鰐澤委員

一番てっぺんの木口がガラスじゃなくても、ステンレスのヘアラインで少し丸みをもたしたもので、すっと通せばそんなには。本当はガラスのままでいいと思います。

○岡河座長

強化のガラスだと金物なしで、下の橋と一体で、ドットポイントグレイジングみたいに留められないことはないでしょう。

○株式会社ヒロコン原本課長

そうですね。地覆の中に埋め込んで、あとは支柱の中に。

○岡河座長

そうそう、地覆の中に埋め込んでガラスだけでいくのもできなくはないんだよね。

○株式会社ヒロコン原本課長

だけでとなると、さっき藤井先生がおっしゃられたように、土木の構造物なので、推力というものに対して耐えられないんですね。

○岡河座長

今の基準で当たったときの。

○藤井委員

それやぶれるの。無理。

○鰐澤委員

推力って川ですか。

○藤井委員

いえ、横からぶつかったときに落ちますよね。高欄が倒れるのを守らないといけません。押したときに、向こうに落ちたらまずいので。

○岡河座長

例えばそれは、ガラスとガラスの間を、もう少し薄い柱でサポートしてはできないのかな。できるかもしれない。

○株式会社ヒロコン原本課長

いろいろ検討したんですが、やはり荷重に耐えようとすると、どうしても2メートルピッチぐらいでは支柱を入れていかないと、やはり耐え得るものができません。

○岡河座長

例えば2メートルピッチですとそれがあるとすると、逆に1メートルピッチでそれがあってもきれいかもしれませんよ、意外に。

○鰐澤委員

2メートルでこれだけ大きなものが来るんだったら、1メートルでもっと細いものでもいいかもしれない。

○岡河座長

細くてもいいかもしれない、そちらのほうがきれいかもしれない。値段のことはちょっとあると思いますが。

○株式会社ヒロコン原本課長

先ほどもありました照明ですよ。支柱照明で進んでいますので、照明を埋め込もうとすると、どうしてもやっぱり100ミリ幅とか、そういった幅が支柱の太さとして、基本的に灯具を配置して、その横に薄い部材を挟み込むような格好で配置せざるを得なくなるので、余り薄くすることが難しいかなと、現段階ではそういうところなんですけれども。

○藤井委員

例えば地覆を少し上げて、地覆の中に照明を埋め込んでしまっ。少し地覆が高くなりますけど。外から見ると、イサム・ノグチ氏の高欄の方は、少し地覆が邪魔しますけど、そういうふうにする、照明はそこで対応できますよね。少し縁切りという意味で、高欄は少し低くとか抑える。もちろん高さは、地覆が高いだけ低く抑えることができるよ

うな、そんなことは可能ですかね。そうすると推力も、小さい断面で対応できますから、そんな地覆はどうでしょう。

○株式会社ヒロコン原本課長

照明がなければ、30ミリとか40ミリの支柱でいけますので。

○岡河座長

30ミリぐらいだったら、かなりスレンダーできれいだと思いますよ。足元で照明を処理していただいて、下のところは多少太くなってもいいわけじゃないですか。上の所がきゃしゃになれば、そこで足元を照らして明るくなるということで、もしも可能なら。そういうのもありかもしれない。

○藤井委員

割と地覆が低い感じがしますよね。だから桁側から支柱を立てないと、推力に耐えられないでしょう。

○岡河座長

いかがですか、西村委員。

○西村委員

先ほどから出ている欄干との高さとか何とかいうことはよく分かりません。ただ、自転車道をつくる必要があるかなというのを、思っております。特別なところですから、自転車の方は降りて押してくださいというのもむしろいいかなと思います。

○岡河座長

なるほど。今度は使い方のマナーの問題ということですね。

○西村委員

そしたら、先ほど言った高欄に近くでそのまま触られるので。ここからここは自転車道ですよという言い方をすると、そっち側を自転車が行きますから、むしろ入り口に、自転車の方は降りて押してくださいという言い方をしたら、歩行者も安心して高欄に触れるスペースができると思うんです。これはマナーですから、そういうふうをお願いするしかないですよ。

○鰐澤委員

モルタル、きれいにとるんですよね。上から吹き付けているモルタル。

○岡河座長

今、吹付塗装ですね、モルタルじゃなくて吹付塗装ですね。

○鰐澤委員

だから、元のコンクリート打ちっぱなしのような形に、白く戻るんですよ。

○岡河座長

そうです。また塗装するんでしょう、その上に。ですから今みたいながたがたじゃなくなって、もう1回スムーズになった、そういう形になるんじゃないですかね。

○鰐澤委員

そういうふうになったときに、ますます自転車が入らないで、シンプルな欄干ができれば。広島市がそれだけイサム・ノグチ氏の作品に敬意を払っているということが、市民とか皆さんにアピールできますよね。

○西村委員

ここで、自転車道がどうして出てきたのか私はちょっと分からなかったんですが、実は私もほとんど自転車なんです。今日はたまたま次の会があるから自転車で来なかったんですが。結構便利はいいですから。自転車のマナー向上というの、みんなに言っていきたいですね。

○藤井委員

そこは乗らない、そこだけは乗らない。

○西村委員

そうです。

○岡河座長

もしそうになったら、いい街ですよ。いい街だなと思うんですね、いろんな人が。マナーのいい街だな。平和記念公園、慰霊碑の前は、自転車でちゃんと押して向こうまで行くと。

逆にそうすると、市民の方からクレームが今度来るんですかね。自転車あそこ乗れないじゃないみたいな。今まで乗っていたのにとか。

○西村委員

それはマナーに訴えるしかないです。例えば今の本通りとかは乗らないでくださいと言っているにもかかわらず、乗っている人がいるんです。これはマナーの問題ですから、お願いしますとしかもうないと思います。そこにあえて自転車道をつくれば、反対にみんな入ってきます。だから自転車道をまずはつくらないようにして、オールフラットな歩道にしたほうがいいんじゃないかなと私は思います。

○岡河座長

もしくはこれをつくって、ここは自転車を押してくださいと、この場所でというふうにちゃんと広報するかですね。

やっぱり戦後のノグチ先生や丹下先生の作品を残そうということをしているんですから、どういうふうにとということについては、さらにきちんとコンセンサスを得て、いろいろやっていくということになるんじゃないですか。一応、デザインアドバイザー会議としては、手すりのところにつきましては、さらに可能な限り検討をしていただいて、もしも案を出していただければ、それに対してアドバイスをしたり、協力をさせていただくという形で進めていただければと思います。

どうですか、委員の先生方。今はこれでいいか悪いかより、もう少し頑張っていたきたいということで、費用や強度の問題、様々あると思いますので、それも含めてということをお願いします。

○藤井委員

地覆を上げるのは、イサム・ノグチさんの高欄は下にコンクリートがもう一本あるんですよね。そうなると、そんなに目立たないかもしれない。対岸とか少し離れているので。ちょっとその辺も合わせて御検討を。

○岡河座長

先ほどからお話に出ておられた、谷口吉生先生の設計された、豊田市美術館、それから猪熊弦一郎美術館の手すりを、ちょっと勉強して見てください。谷口先生、広島でも仕事をされておまして、ごみ処理場ですね、中工場。美術館みたいな本当にびっくりするほど美しいごみ処理施設で、きちっと手をお抜きにならずにやっておられるので、ぜひ参考にさせていただきます。

いかがですか、これにつきまして。平和大橋については、あと2回あるわけですね。では、引き続きよろしくをお願いします。

○藤井委員

落橋防止装置がありますよね。この橋をつくと随分隠れますよね。気になってたんですが。

○加藤道路計画課長

それはあると思います。

○藤井委員

あれが見えるとよくないだろうと思って。

○岡河座長

それでは、本日予定していた議事は全て審議を行いましたので、平成26年度第2回広島市都市デザインアドバイザー会議を終了いたします。各先生、ありがとうございました。

○萬ヶ原都市デザイン担当課長

本日はお忙しい中、お集まりいただきありがとうございます。

貴重な御意見、御提案をありがとうございました。道路計画課、それから中区地域整備課、本日いただいている御意見を参考にしまして、今後検討を深めていただきたいと思います。本日はどうもありがとうございました。